

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

《医療系》

●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本研究科の学位授与は、課題研究報告または修士論文のいずれかにより審査を行っている。課題研究報告と修士論文の審査基準は定められているが、教員全てが合意できる審査結果が得られない例がある。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

課題研究報告か修士論文かの判断が困難となる理由は、学生の研究課題が文化人類学、母子保健、保健システム、感染症、衛生動物学など多様であるために、既存の審査基準に沿って学位審査を行うことが適切でない場合があるためである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

審査委員が、既存の審査規定にそって、課題研究報告か修士論文かの判断を行うが、指導教員の意見を十分取り入れたうえで、最終判断がなされている。しかし、この課題については、検討中である。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《医療系》

●長崎大学国際健康開発研究科国際健康開発専攻

「国際保健分野特化型の公衆衛生学修士コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

2年次に学生は8ヶ月間のインターンシップと課題研究を開発途上国で実施する。国によって異なるが、学生に安全な勉学・生活環境を与えなければならない。また学生のインターンと研究を行う上での経済的負担を少なくしてやるべきである。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

長期インターンシップにおいては、学生が渡航する先での、勉学・生活の安全性や危機管理と、渡航費を含む学生の経済的負担に関する心配が常に存在する。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

GP 支援により学生が安全な生活環境の基にインターンと課題研究を行えた。また、渡航前オリエンテーションの充実、派遣機関におけるメンターの配置、学生から大学への月例報告提出に加え学生派遣先への教員訪問等による密なコミュニケーションを行うなど、海外滞在中の学生の安全の確保は常にプログラムの最重要事項の一つとして位置づけられている。今後も海外での学生の長期にわたるインターンシップには、旅費と安全が確保できる宿舍費の支援など、生活費の一部の支援が不可欠である。